# 勿凝学問 391

年金に関する情報の生成、伝達問題
年金から見える民主主義の一側面

2014 年 11 月 26 日
慶應義塾大学商学部
教授　権丈善一

＞　今回の様々な資料で、どのように誤解されてきたのか大方わかったが、
＞　二重の負担がなぜ債務超過に勘違いされたのかだけはさっぱり理解できなかった。

これは、社会保障論を履修している学生のレポートの一文。課題は、次。

『はじめての社会保障』７章＋８章
次のリンク先、その先のリンク先、その先のリンク先をすべて読んで
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000053851.html

800 字のレポート

リンク先は、「社会保障の教育推進に関する検討会」の参考資料のページ

参考資料１
**社会保障の正確な理解についての１つのケーススタディ～社会保障制度の“世代間格差”に関する論点～**
社会保障における給付と負担の関係を整理した解説資料
参考資料１　社会保障の正確な理解についての１つのケーススタディ

**その他の参考に資する資料**

- 第５回社会保障の教育推進に関する検討会資料　週刊社会保障　2012 年５月２８日号、６月４日号「世代間格差論に対する考え方」
- 第５回社会保障の教育推進に関する検討会資料　最近の新聞報道に見られる年金制度等に係る誤解等について
- 第５回社会保障の教育推進に関する検討会資料　年金時代 2012 年５月号　宮台真司委員インタビュー
- 第３回社会保障の教育推進に関する検討会資料　権丈座長配付資料
- 第 12 回社会保障制度改革国民会議　権丈委員提出資料
- 第 20 回社会保障制度改革国民会議　権丈委員追加提出資料

まぁ、学生が、「二重の負担がなぜ債務超過に勘違いされたのかだけはさっぱり理解できなかった」というのも分からないではない。これはたぶん、誰にも分からないと思う。しかしながら・・・というのが、この文章の話。

「年金に関する情報の生成、伝達問題」という話を最初に紹介したのは、2011 年 9 月 3 日のホームページ。そこで「年金に関する情報の生成、伝達問題」と称して何を言いたかったのかというと、要するに、高山先生が、「公的年金のバランスシート論」という二重の負担を債務超過と勘違いした論文を書くのに、科研費 9,750 万円がかかったということ。その後も、高山先生は同様の研究テーマの下に、総計 12 億 3,309 万円の科研費を使われているということになる。

さて、厚労省は文科省をどうみる？財務省は科研費の使われ方をどう評価する？そして、年金と民主主義の問題に興味を持つ人たちは、「年金に関する情報の生成、伝達問題」に関して、どのような感想を抱く？

年金というのは、本当に、民主主義というものを考えさせてくれる良い教材となるわけです。

次は、2011 年 9 月 3 日のホームページ。

どもな。なるほど、こんな検索システムがあるわけかぃ。

> 何のお役に立つのかちょっとわかりませんが。。。

最近、僕らの周りで話題の「年金に関する情報の生成、伝達問題」を考える上で、「情報戦は資金力が制する」という昔からの僕の仮説を確かめたくなってね。
なるほどね。

| | | |
|---|---|---|
| 2000～2005 年度 | 世代間の利害調整に関する研究 | 総額：97, 500 千円 |
| | 研究成果の概要<br>１．日本における公的年金の現状をバランスシート・アプローチによって解明し、過去拠出にかかわる超過債務 600 兆円超をいつ、誰が、どのような形で、どこまで圧縮するのかについて具体案を示し、それと 2004 年の年金改正法との違いを明らかにした。 | |

| | | |
|---|---|---|
| | ２．・・・<br>３．・・・ | |
| 2000～2004 年度 | 年金をめぐる世代間の利害調整に関する経済理論的・計量的研究 | 総額：108、200 千円 |
| 2006～2010 年度 | 世代間問題の経済分析 | 総額：650、520 千円 |
| 2010～2015 年度 | 世代間問題の経済分析:さらなる深化と飛躍 | 総額：376、870 千円 |
| | 総計 | 12 億 3,309 万円 |

文科省って、まぁ、無邪気なところがあるんだよな。

- 学問凝勿 26　文科省のインフレ政策？

ところで、私は、昔から、下記の太字のようなことを考えている人間。

> 学問凝勿 25　混合診療論議を題材とした政治経済学っぽい遊び PartⅡ
>
> 研究者を育てる大学院のような専門家教育というのは、業績を上げなければならないという世俗的義務・世俗的欲求の中にあっても、データ改竄の欲求に生涯負けてはならないという最も初歩的なことをはじめ、人のアイデアはちゃんと出典を明示せよとか、**分析の解釈は禁欲的であるべきことを忘れるなとか、自分がやってきたことに意味がないことが分かったら意味ありげに発表しない、間違いであったことが分かったら潔く認めることのできる胆力を鍛えると同時に、ひとつふたつテーマがつぶれても笑っていられる余裕をもつように**などなど、教育の半分はお作法という名の職業倫理を教えているようなもの。

「世代間の利害調整に関する研究」の報告書の中に、我々が批判した年金バランスシートの論文が、一文字も修正されることなく掲載されているのを見て以降は、院生に、「若いときは、あんまり研究費をもらうな。君らの頃は、結果がどうなるか分からないくらいのことを考えた方がいいわけで、結果が芳しくなかった時、研究費をもらっていたら身動きがとれなくなるぞ。社会科学における研究費というのは、弊害の方が目につく」と、時々言うようになる。

メディアの世界でも、一ヶ月後に年金で記事を書きなさいと指示を出された若い記者なんかは、同じようなものかもな。勉強して分かったんですけど、年金ってみんなが思っている程のものではありませんでしたよ、などという記事は書けないでしょうからね。

ちなみに、本稿の冒頭に引用した学生のレポートを見たのは今年の 11 月 12 日。その日に、僕のホームページには次のようなことを書いているね。

いや、だから、次はどういうふうに読むかというと、公的年金のバランスシート論を考え出すのに、9,750 万円の研究費がかかったということだよ。

- 年金に関する情報の生成、伝達問題

うんまぁ、大方は、君がレポートに書いている感じだと思う。

＞今回の様々な資料で、どのように誤解されてきたのか大方わかったが、
＞二重の負担がなぜ債務超過に勘違いされたのかだけはさっぱり理解できなかった。

ちなみに、次の研究には 1 億 820 万円かかってるな。

- 日本における公的年金のバランスシートは 2004 年の年金改正によって完全に修復され健全化されたと政府は主張している。ただ、将来拠出部分のバランスシートに着目すると、年金給付は保険料拠出分の 80%程度にすぎない。そのような状況下では若者は年金離れを加速させるだろう。

でも、政府は、公的年金のバランスシートは修復されたなんて言っていないと思うんだけどね。修復しようも何も、「そもそも」彼の公的年金バランスシート論っておかしいだろうという話だからな。ほかに、世代間問題の経済分析に 6 億 5,052 万、世代間問題の経済分析:さらなる深化と飛躍に 3 億 7,687 万円——まぁ、税金だろうよ。

とにかく、日本の年金問題の多くは、数人の年金論者による人災だったと思うよ。
今も一橋には、世代間問題研究機構というのがあるが、そこで働いている限り、一生、世代間問題！と言い続けなければならないんだろうな。
研究費というのは、ほんっと考えもんだ。
そしてすぐにものごとのはじまりに興味がわく僕は、昨日も言ったように、誰が彼を一橋に呼んだのかに興味があってね。今の一橋関係者の年金論の源はその人事にあったとも言えるみたいで、人事ってのはこわいもんだよ。

参考資料

勿凝学問 15x　やれやれの年金バランスシート論

勿凝学問 16　残暑お見舞い申し上げつつ——＜やれやれの年金バランスシート論＞読者よりのメール

勿凝学問 259　新たな高山年金改革案と社会保障国民会議年金シミュレーションとの関係——煙が立つ前に火を消しておくかな

次もどうかな

「年金債務超過話の震源」『週刊東洋経済』2012 年 8 月 11-18 日号
「半学半教」『塾』2011Autumn